

令和 5 年 6 月 11 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(B)（海外学術調査）

研究期間：2016～2020

課題番号：16H05653

研究課題名（和文）子ども期の逆境体験が成人の心身の健康に及ぼす影響に関する縦断的コホートの比較研究

研究課題名（英文）Adverse childhood experiences and adulthood health outcomes; the comparison of longitudinal cohort studies

研究代表者

滝沢 龍（Takizawa, Ryu）

東京大学・大学院教育学研究科（教育学部）・准教授

研究者番号：30420243

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 11,900,000円

研究成果の概要（和文）：英国国家プロジェクトとして数万人規模で行われる複数の出生コホート研究に参加し、子ども期の逆境体験（虐待、いじめ等）が成人に至る一生涯の健康・生活への影響を立証するためにライフコースアプローチを用いて国内外で共同研究を行ってきた。子ども期の逆境体験の長期的な悪影響をバイオマーカーや社会的コストとして「見える化」しただけではなく、たとえ逆境経験があったとしても、そうした悪影響から抜け出すためのレジリエンスの要因となる特徴（支持的関係や情動コンピテンス等）を見出し、今後の予防教育的介入への示唆を得た。

研究成果の学術的意義や社会的意義

実施した一連の国際共同研究や国内での比較研究は、子ども期の逆境体験による成人期の健康や生活に対する長期的な累積インパクトを科学的エビデンスとして把握し、そうしたリスクを緩衝する可能性のある可変性因子を見出した学術的意義がある。「バイオマーカー」や「社会的コスト」としてわかりやすく「見える化」した試みでもあり、今後の健康政策・教育政策に示唆を与えうる社会的意義のある成果である。

研究成果の概要（英文）：Our researches with multiple birth cohorts in the UK and comparative works in Japan have revealed or 'visualized' that adversities in childhood had long-term negative effects on adult health outcomes across the life course, including inflammation/metabolic bio-markers and societal costs. Also, we elucidated not only the potential risks but also the buffering factors against the impacts, such as supportive relationships and emotional competence. These findings suggested the potential of the preventive education intervention to promote the resilient factors.

研究分野：臨床精神医学・臨床心理学

キーワード：逆境 出生コホート ライフコース 双生児 見える化 社会的コスト バイオマーカー 健康

## 1. 研究開始当初の背景

子ども期の家庭の貧困、親の精神障害、家庭内暴力、大人からの虐待、同年代からのいじめ、本人の精神障害・行動障害といった「子ども期の逆境体験(Adverse childhood experience[米国]・Child Adversity[英国])」が、本人たちの児童・思春期の健康や生活に悪影響があることは、これまでの横断研究や数年単位の縦断研究から高いエビデンスレベルで明らかになっている(Gilbert et al, Lancet 2009; Arsenault et al, Psychol Med 2010)。一方で、これらの悪影響が児童思春期の間の数年で終わるのか、成人して独立して以降、数十年という単位で成人になっても長期間続くのかは明らかではなかった。これは子ども時代の逆境体験自体をターゲットにした子ども期だけの短期的な対処をすればよいのか、同時に成人期の健康や生活にまで一生涯続く長期的な悪影響に対しても対処する必要があるのかという点で、焦点となるアプローチが異なってくるため、明らかにすることが求められているテーマであった(滝沢,2015a)。

こうした検討には、子ども期から成人に至るまでの人生全体をカバーした生涯発達の視点(Life-course developmental perspective)からの研究方法が必要となり、ある年代層の横断的研究だけではなく、ある年齢層を縦断的に計測する出生コホート研究が理想的である(滝沢,2015b)。出生コホートは、異なった時点で同一個人の経歴を追跡し、子ども期からの健康や生活状況(health and life circumstances)が、長期的にその後の人生の達成や結果に与える影響を検討するものである。しかし残念ながら、日本には上記の問題意識から、出生時から成人に至るまで、数十年単位で継続的に追跡した出生コホート研究はいまだに存在しない(滝沢,2015b)。

一方で、最近になり、成人早期に至るまで長期的な健康問題への影響が続くエビデンスが少しずつ明らかになりつつある。申請者は、海外研究者と共同して、National Child Development Study(NCDS)という1958年生まれの約18000名を追跡している英国コホート研究データを用いて、「子ども期のいじめ体験」という環境要因が、その他の子ども時代の逆境体験を統制しても、50歳までの精神的健康(うつ病、不安障害、自殺念慮)、社会対人関係(ソーシャルサポートを含む)、社会経済的指標(賃金、失業)、人生の満足度、QOLやWell-beingへの悪影響が続くことを示した(Takizawa et al, Am J Psychiatry, 2014)。これまで20代前半までの検討はあったが、40代・50代といった中年成人期以降までの影響を示した研究は世界的にも画期的であったため、BBCなどのTV、ラジオ、新聞、インターネットなど全世界のメディアで取り上げられた。さらに、いじめ体験が、他の逆境体験を統計的に統制しても、中年成人期の肥満(BMIやWaist-hip-ratio)や心血管疾患のリスク(CRPやFibrinogenといった血液データ:炎症バイオマーカー)に悪影響を与えていることを示した(Takizawa et al, Psychological Medicine, 2015)。子ども期の心理社会的なストレスが数十年後の身体的健康にまで悪影響を残していることは、驚きをもって迎えられ、欧米を中心としたTVや新聞などのメディアに取り上げられた。

本研究では、次のステップとして、こうした長期的な悪影響を最小限にとどめる緩衝作用(Buffer)となる要因やレジリエンス要因、取り除くべきリスク因子などを同定し、子ども期から中年・初老成人期に至る間のどの時点で適切な介入を行いうるかという点に役立つ知見を見出すことを目指している。

## 2. 研究の目的

数万人規模の英国等で行われる複数の出生コホートの縦断的データを用いて、子ども期の逆境体験[虐待、いじめ、貧困(養育者の低い社会経済的地位)、本人の精神・行動障害(抑うつ・不安・精神病症状・自傷・希死念慮等)、養育者の精神障害等]が成人に至る一生涯の健康・生活への影響を立証するために生涯発達の視点(Life-course developmental perspective)から検討をする。蓄積された豊富なデータを用いて、子ども期(扶養される期間)から成人期に至る長期にわたる健康・生活の変化を把握し、それに対するリスクとレジリエンスとなる要因を同定し、子ども期からの予防・早期発見に役立つ施策に利用できるエビデンスを提供することを目的とする。英国等の長年に渡る豊富な経験を持つコホート研究を調査し、将来の日本の研究に生かす基盤とする。

本研究の目的は、子ども期の逆境体験の長期的な悪影響を捉えることにあるが、それだけではない。たとえ逆境経験があったとしても、すべての人が悪い結果になるわけではないのであり、そうした悪影響から抜け出すことができた人々(幼少期の健康度は悪くとも、成人期の健康度が良くなっている人々)を捉えて、そのレジリエンスの要因となる特徴を見出す。つまり、「逆境の中でも健康に生活していられる秘訣を探る」ということが5年間を通じた目標になる。

今回共同研究しているのは、人生全体を見据えて(Life-course approach)、人間の発達(Human development)を多面的・学際的に把握していく長期的なコホート研究で、最先端の研究をこなしてきた複数の海外研究者たちである(滝沢,2015a)。申請者は英国のThe Royal SocietyとThe British Academyから支援を受け、2012年からこれまで彼らと共同研究する幸運な機会を得てきたので、本研究ではさらに新しいフィールドワークに発展させていくことを目指している。

### 3. 研究の方法

英国・ニュー・ランドで行われる出生コホート研究は、健康・生活習慣と教育・経済などの人生全体を見据えた生活環境全般を出生時から計測しており、数十年のフォローアップ期間を持ち、成人期の測定を定期的に行っている。申請者は海外共同研究者とそのデータ使用申請を済ませている。本計画の前半は、子ども期の逆境体験と成人期の健康・生活の変化について、それぞれのコホートの変数の把握、コホート間の比較ができるか調査・確認し、長期的な関連を検討する。平成30年度には英国 NCDS が60歳時 Biomedical survey(医学的診断・脳神経画像・採血等の測定)の予定があり、そこから後半は長期的悪影響への媒介・緩和因子を検討してレジリエンスを促進する介入に役立つ要因を同定し、別コホートでの再現性を確認することで高水準のエビデンスを目指す。

本研究で対象とする英国やニュー・ランドのコホートは、精神的健康、身体的健康、社会経済的指標、社会対人関係、食生活習慣・運動、趣味などライフスタイル、パーソナリティ、幸福感など幅広い計測を5年から10年単位で断続的に縦断計測をしている。英国のコホートでは、1946年生まれ(NSHD)、1958年生まれ(NCDS)、1970年生まれ(BCS70)、1990年生まれ(ALSPAC)、2000年生まれ(MCS)、など複数のコホートがあり、申請者は英国の共同研究者の協力によりデータアクセスできる状況にある。1973年生まれのニュー・ランドでのコホート(Dunedin study)、1994年生まれの英国双生児コホート(E-Risk study)も申請者が所属した研究室が運営し、今後もデータアクセスが許されるため、複数のコホート間で再現性の検証(Replication study)が可能である。これまでに、そうした大規模なコホート間解析(Cross-cohort analysis)が行われることはほとんどなかった。長期的にフォローアップしている出生コホートデータを用いて、アウトカムを社会で活躍する現役世代である成人期に設定することで、成人期までの健康や生活の問題に至ることがある重大性を確認し、子ども期の逆境体験が生涯を通じて長期的な影響を与えることを示すことを目的とする。

上記の検討をするために、子ども期の逆境体験の個人差を踏まえつつ(グループ毎の解析や統計的統制を行う)縦断的な複数時点の成人期の健康・生活への影響を検討する重回帰分析やロジスティック回帰分析などを用いる(子ども期の逆境体験を統制した共分散分析や共変量を含めた多変量分析を行う)特に相違を作り出し得る要因と関連のある因子を同定し、介入の糸口とすることが目標となるので、これまで横断的研究や短期的な縦断研究で示唆されてきた、以下のようなレジリエンス促進因子を再確認する。特に早期予防・介入の対象となる思春期や成人早期の時期が候補になる。例えば、[1]個人要因(高い自己制御能力・自尊心・自己肯定感等) [2]家庭要因(家庭内暴力がないなどの家族内の良好で安定的な関係、相談相手として信頼できる親子関係等) [3]社会要因(知覚されるソーシャルサポート、友人などとの良好で信頼できる人間関係等)である。統計解析としては、これらが媒介・緩和因子となっているかを検討する。その際、縦断的な複数時点のパス解析や潜在因子も含めた共分散構造分析を行うことも想定している。

こうした検討には、複数のコホートを用いた多岐にわたる解析・学際的な解釈が必要であり、そのテーマや対象によって連携する海外研究者との組み合わせは、その研究者個人の専門分野や扱ってきたコホートに合わせて適宜変更していき、最も効果的な相乗効果を出せるよう調整する。

### 4. 研究成果

英国国家プロジェクトとして、数万人規模で行われる複数の出生コホート研究に参加し、データ解析や国内研究との比較研究を行うための検討を続けてきた。複数の縦断的な出生コホートデータを用いて、子ども期の逆境体験[虐待、いじめ、貧困(養育者の低い社会経済的地位)、本人の精神・行動障害(抑うつ・不安・精神病症状・自傷・希死念慮等) 養育者の精神障害等]が成人に至る一生涯の健康・生活への影響を立証するためにライフコースアプローチを用いて研究を行ってきた。年に2~3回程度の頻度で定期的に英国・ロンドンで行われる共同研究者の会議へ参加して、進行状況の情報収集を進め、解析・公表や次の計測計画について議論してきた。先行するコホートで使用されてきた項目と同様の解析が出来るよう測定会議(例えば2016年7月 NCDS Age-60 Consultative Conferenceへの参加)の際に働きかけ、これまで単体コホートで示した結果についてコホート間の比較・再現性の検証ができるようにした。これらの国際共同研究を通じて、国内・国際学会での発表や国内外の学術雑誌に、数多くの成果の公表を行うことができた。以下には、本研究期間に主に国際共同により公表してきた研究成果の一部のみを抜粋して記載する。

研究代表者は、これまでの一連の公表論文によって、子ども期の逆境体験による40~50代までの成人期の健康・生活に幅広くネガティブな影響を長期間に及ぼし続けることを示してきた(Takizawa et al, American Journal of Psychiatry, 2014; Takizawa et al., Psychological Medicine, 2015)。その一環として、子ども期のいじめ被害体験が、50代までの成人期に至るまでメンタルヘルスのサービス利用の頻度の上昇に有意な関連を認め、国家規模の健康保険制度へ長期間の負荷をもたらしていることを公表した(Evans-Lacko, Takizawa et al.,

Psychological Medicine, 2016)。

こうした生物心理社会的研究と並行して、ロンドン大学。経済・政治学部 (London School of Economics and Political Sciences) との共同研究により、こうした長期的な悪影響の社会的コスト算出を行った。これにより、子ども期のいじめ被害による 50 代までの社会的コスト[雇用・ヘルスサービス費用・貯蓄資産など]への影響が甚大であることを初めて明らかにし、学校での予防教育プログラムの費用の方が圧倒的に安価であることを示した(Brimblecombe, Evans-Lacko, Knapp, King, Takizawa, Maughan, Arseneault, Social Science and Medicine, 2018)。これは逆境体験の累積インパクトを、「社会的コスト」によって<見える化>する試みであり、今後の健康政策・教育政策に示唆を与える成果である。

さらには、こうした逆境による長期的悪影響に対する緩衝要因を明らかにするため米国 University of Pennsylvania と英国 King's College London との共同研究で、E-Risk cohort からの論文公表 (Jaffee, Takizawa, Arseneault, Psychological Medicine, 2017) にもつながった。子ども期に虐待経験という逆境体験があったとしても、「安定した温かい対人関係が現時点にある」ことで、その成人の健康や健康行動悪影響を緩和できる可変性の社会環境要因を示唆したもので、逆境体験に対するレジリエンスにつながる報告である。

このほか、米国 Duke University と英国 King's College London との共同研究で英国の大規模な双生児コホート (the Environmental-Risk (E-Risk) Longitudinal Twin Study) を用いて、さまざまな遺伝的素因を統制しても、なお純粋に環境的要因として思春期までの逆境体験が自傷・自殺の思考と行動へ影響を与えていることを、双生児法を用いた厳格な統計的検討で初めて明らかにした (Baldwin, Arseneault, Caspi, Moffitt, Fisher, Odgers, Ambler, Houts, Matthews, Ougrin, Richmond-Rakerd, Takizawa, Danese. Journal of the American Academy of Child and Adolescent Psychiatry, 2019)。

こうした出生コホートを用いた社会的インパクトのある一連の研究公表に対して、2018 年 3 月にロンドンで行われた 60 years of our lives: A scientific conference celebrating the National Child Development Study at 60 というカンファレンスにおいて、研究代表者が Recent Contribution Award を受賞することができた。

また国内でも並行した大規模研究を複数実施しており、情報技術時代における新しいいじめ研究のアプローチとして「ネットいじめ」にも着目し、思春期のメンタルヘルスへ与える影響やその心理的緩衝要因の一つ (情動コンピテンス) を特定することができた (Urano, Takizawa, et al., Journal of Adolescence, 2020)。

2019 年度後半から当初の最終年度であった 2020 年度にかけて、世界的な新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の蔓延により、調査の中断や会議の順延が起こり、研究計画全体の一時的な順延を余儀なくされた。2019 年から開始した NCDS の Biomedical survey (61-63 歳時測定) は、COVID-19 の影響で Fieldwork や測定が停止し、残念ながら本研究期間中にデータが使用できるか不透明となったため、当初の予定を変更し、これまでの測定データを活かして他のコホートとの比較検討を行ったり、これまでの知見を展開させる検討を行ったりすることとなった。例えば、これまで公表してきた知見が将来のランダム化比較試験等の介入研究として応用できるよう、Systematic Review として英文や邦文の論文としてまとめた (Ihara, Kurosawa Matsumoto, Takizawa, Current Psychology, 2021)。

やむを得ず 2 年間の繰り越しを行い、最終年度の 2022 年度から徐々に計画が再開することができ、2023 年 3 月に本研究は終了することとなった。その間、国際共同研究のこれまでの成果や進捗を踏まえた上で、国内研究の計画や先行研究をまとめた数々の展望論文の公表を進めることができた。2022 年度に入り、共同研究会議も再開し、解析・公表や、次の計測計画について議論を進めている。こうした検討を続けることで、逆境体験による心身の健康への長期的リスクと、それらに対するレジリエンスに役立つ保護因子を明らかにしつつある。こうして積み重ねてきたエビデンスによる示唆を含めて、レジリエンスやメンタルヘルスの向上を目指した集団認知行動療法やマインドフルネス瞑想などの予防介入を用いて、ランダム化比較試験など科学的エビデンスの高い研究デザインで効果実証する必要性を示し、その一部を予備的な検討として国内で実施し、結果を国内外の学会や学術雑誌で公表し始めることもできた。今後も引き続き、英国プロジェクトの出生コホート研究 (National Child Developmental Study (1958) / British Cohort Study (1970) / Next Steps (1989) / Millennium Cohort Study (2000) 等の次回測定に参与していく。本研究に引き続きさらに展開させる内容として新たな科学研究費を獲得しており、これらのコホートの知見から得られた内容に関連する論文投稿や国際学会発表を予定している。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計62件（うち査読付論文 41件 / うち国際共著 13件 / うちオープンアクセス 56件）

1. 著者名 Ihara Y, Kurosawa T, Matsumoto T, Takizawa R.	4. 巻 42
2. 論文標題 The Effectiveness of Preventative Group Cognitive-Behavioral Interventions on Enhancing Work Performance-related Factors and Mental Health of Workers: A Systematic Review.	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Current Psychology	6. 最初と最後の頁 2797-2810
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 黒沢拓夢、安達滉一郎、下田茉莉子、滝沢龍	4. 巻 754
2. 論文標題 労働者のメンタルヘルスの現状と課題およびデジタル技術を活用した支援に関する展望	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本労働研究雑誌	6. 最初と最後の頁 56-64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 韓暁ろ・梁嘉慧・安達滉一郎・下田茉莉子・滝沢龍	4. 巻 46
2. 論文標題 レジリエンス向上を目指す心理的介入に応用されるライフスタイル介入法の現状と課題	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要	6. 最初と最後の頁 in press
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 王雨豪・韓暁ろ・滝沢龍	4. 巻 46
2. 論文標題 いじめ被害と人格特性との関連についての時代的変遷に関する概観と今後の展望	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要	6. 最初と最後の頁 in press
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 安達滉一郎・宇和川梨子・青木由未加・黒沢拓夢・滝沢龍	4. 巻 46
2. 論文標題 非侵襲的かつ簡便なバイオマーカーを用いた心理的介入の効果測定についての現状と展望	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要	6. 最初と最後の頁 in press
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 梁嘉慧・日比麻記子・滝沢龍	4. 巻 46
2. 論文標題 スキーマ療法に基づく心理教育を用いた日常的ストレス反応による悪影響の軽減および重症化予防の試み	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要	6. 最初と最後の頁 in press
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 杉江麻衣・日比麻記子・黒沢拓夢・滝沢龍	4. 巻 46
2. 論文標題 メンタルヘルス問題におけるスティグマとセルフ・コンパッションの関連の検討	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要	6. 最初と最後の頁 in press
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 下田茉莉子・宇和川梨子・滝沢龍	4. 巻 46
2. 論文標題 月経随伴症状に対する心理的介入の概観と展望	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要	6. 最初と最後の頁 in press
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 下田茉莉子、梁嘉慧、宇和川梨子、日比麻記子、滝沢龍	4. 巻 62
2. 論文標題 月経周期に伴う心身の状態変化を把握するバイオマーカー研究の概観.	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 東京大学大学院教育学研究科紀要	6. 最初と最後の頁 335-347
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 宇和川梨子、安達滉一郎、滝沢龍	4. 巻 62
2. 論文標題 反応的攻撃性の研究の概観と今後の展望 感情制御に着目して	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 東京大学大学院教育学研究科紀要	6. 最初と最後の頁 271-279
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 黒沢拓夢、杉江麻衣、安達滉一郎、滝沢龍	4. 巻 62
2. 論文標題 セルフ・コンパッションを臨床応用したオンライン介入の研究動向と課題	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 東京大学大学院教育学研究科紀要	6. 最初と最後の頁 237-247
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 青木由未加、滝沢龍	4. 巻 62
2. 論文標題 若者ケアラーに関する研究の現状と展望：若者ケアラー特有の孤立感に着目して	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 東京大学大学院教育学研究科紀要	6. 最初と最後の頁 281-289
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 梁嘉慧、下田茉莉子、滝沢龍	4. 巻 62
2. 論文標題 抑うつ症状における内受容感覚とトラウマティックストレスの関連の予備的検討	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 東京大学大学院教育学研究科紀要	6. 最初と最後の頁 429-435
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 日比麻記子、下田茉莉子、滝沢龍	4. 巻 62
2. 論文標題 対人的逆境体験を持つ成人のメンタルヘルスサービス利用に影響を与える要因の概観	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 東京大学大学院教育学研究科紀要	6. 最初と最後の頁 561-570
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 韓暁ろ、滝沢龍	4. 巻 62
2. 論文標題 成人における心のレジリエンスの効果的要因と理論的枠組みについての検討 応用場面別のレジリエンス向上法のレビュー	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 東京大学大学院教育学研究科紀要	6. 最初と最後の頁 75-90
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 橋本里奈、高橋史也、滝沢龍	4. 巻 in press
2. 論文標題 コロナ禍におけるオンライン対人交流が主観的・客観的睡眠の質に与える影響 : スマートウォッチを用いた縦断的検討	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 精神医学	6. 最初と最後の頁 in press
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -



1. 著者名 太田一実、滝沢龍	4. 巻 65(4)
2. 論文標題 高齢者・認知症ケアへのコミュニケーションロボットの活用	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 心理学評論	6. 最初と最後の頁 395-413
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 滝沢龍	4. 巻 33(4)
2. 論文標題 人生早期ストレスの長期的な健康への影響と保護的要因：英国の大規模出生コホート研究からの科学的エビデンス	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 発達心理学研究	6. 最初と最後の頁 205-211
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 出野美那子・大久保圭介・滝沢龍・遠藤利彦	4. 巻 33(4)
2. 論文標題 児童期後期から青年期後期における肯定的再評価と感情にまつわる話合い：コホート系列デザインによる10年の縦断的関連	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 発達心理学研究	6. 最初と最後の頁 378-390
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 韓暁ろ、大賀真伊、東菜摘子、滝沢龍	4. 巻 45
2. 論文標題 「心のレジリエンス」を向上させる可能性についての検討 概念と影響因子から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要	6. 最初と最後の頁 68-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 菅原伶奈、東菜摘子、大賀真伊、滝沢龍	4. 巻 45
2. 論文標題 子ども期の逆境体験に対する保護的体験についての研究の現状と展望	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要	6. 最初と最後の頁 61-67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 横須賀咲紀、黒沢拓夢、石川智子、高橋史也、安達滉一郎、太田一実、滝沢龍	4. 巻 45
2. 論文標題 大学生の課外活動がメンタルヘルスに与える影響 国内外の研究の概観	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要	6. 最初と最後の頁 76-83
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 太田一実、横須賀咲紀、滝沢龍	4. 巻 61
2. 論文標題 Human-Robot Interaction (HRI)の社会実装の取り組みと課題	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東京大学大学院教育学研究科紀要	6. 最初と最後の頁 221-230
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 黒沢拓夢、東菜摘子、太田一実、滝沢龍	4. 巻 61
2. 論文標題 メンタルヘルスとワークパフォーマンスの関係性 労働者の語りに基づく探索的検討	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東京大学大学院教育学研究科紀要	6. 最初と最後の頁 131-141
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石川恵太、東菜摘子、大賀真伊、滝沢龍	4. 巻 33(2)
2. 論文標題 親の小児期逆境体験が次世代の精神病理に与える影響に関する研究の現状と課題	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 発達心理学研究	6. 最初と最後の頁 89-103
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 高橋史也、橋本里奈、安達滉一郎、黒沢拓夢、太田一実、滝沢龍	4. 巻 64(3)
2. 論文標題 デジタルバイオマーカーを用いたメンタルヘルス研究の現状と展望	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 精神医学	6. 最初と最後の頁 357-368
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 井原祐子・黒沢拓夢・滝沢龍	4. 巻 60
2. 論文標題 社会人向けセルフケア研修プログラムの開発に向けて 集団認知行動療法を基盤としたレジリエンス・スキル・トレーニング	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東京大学大学院教育学研究科紀要	6. 最初と最後の頁 13-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 高橋史也・西野悠太・安達滉一郎・黒沢拓夢・井原祐子・滝沢龍	4. 巻 44
2. 論文標題 情報通信技術 (ICT) を利用したメンタルヘルスケアの最新動向	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要	6. 最初と最後の頁 82-88
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 橋本里奈・松本珠美・石川智子・下田茉莉子・金里紗・西野悠太・滝沢龍	4. 巻 44
2. 論文標題 対人関係が心身の健康に及ぼす影響に関するバイオマーカー研究の概観	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要	6. 最初と最後の頁 89-98
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石川智子・松本珠美・橋本里奈・黒沢拓夢・滝沢龍	4. 巻 44
2. 論文標題 ワーク・ファミリー・コンフリクトがメンタルヘルスに与える影響 日本国内と海外の動向に着目して	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要	6. 最初と最後の頁 78-81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ihara Y, Son D, Nochi M, Takizawa R.	4. 巻 10
2. 論文標題 Work-related stressors among hospital physicians: A qualitative interview study in the Tokyo metropolitan area.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 BMJ open	6. 最初と最後の頁 e034848
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Urano, Y*., Takizawa, R.*, Ohka, M., Yamasaki, H.	4. 巻 80
2. 論文標題 Cyber bullying victimization and adolescent mental health: the differential moderating effects of intrapersonal and interpersonal emotional competence	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Adolescence	6. 最初と最後の頁 182-191
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 井原祐子・シュレンベル レナ・孫大輔・滝沢龍	4. 巻 28(4)
2. 論文標題 病院勤務医のメンタルヘルスに関する援助要請の障壁	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 産業精神保健	6. 最初と最後の頁 349-357
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 滝沢龍	4. 巻 14(8)
2. 論文標題 いじめ体験の長期的な影響を科学する	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 こころの元気プラス	6. 最初と最後の頁 16-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黒沢拓夢・井原祐子・滝沢龍	4. 巻 43
2. 論文標題 労働者のメンタルヘルスと生産性 preseteism研究の概観	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要	6. 最初と最後の頁 78 - 84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 安達滉一郎・中牟田春美・滝沢龍	4. 巻 43
2. 論文標題 大学生を対象としたマインドフルネスに基づく心理教育プログラムの概観	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要	6. 最初と最後の頁 78 - 84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中牟田春美・安達滉一郎・西野悠太・滝沢龍	4. 巻 43
2. 論文標題 児童期・青年期の心理教育の現状と今後の課題	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要	6. 最初と最後の頁 93 - 100
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 下田 茉莉子・松本 珠実・滝沢 龍	4. 巻 43
2. 論文標題 バイオフィードバックによる心理的指標への影響の概観と展望	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要	6. 最初と最後の頁 101-108
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 金里紗・石井礼花・滝沢龍	4. 巻 43
2. 論文標題 周産期支援についての現状と課題 児童虐待防止の観点から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要	6. 最初と最後の頁 109-116
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松本珠実・下田 茉莉子・井原祐子・滝沢 龍	4. 巻 43
2. 論文標題 親密な関係性と個人のwell-beingの関係の検討	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要	6. 最初と最後の頁 117-124
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ando J, Fujisawa KK, Hiraishi K, Shikishima C, Kawamoto T, Nozaki M, Yamagata S, Takahashi Y, Suzuki K, Someya Y, Ozaki K, Deno M, Tanaka M, Sasaki S, Toda T, Kobayashi K, Sakagami M, Okada M, Kijima N, Takizawa R, Murayama K.	4. 巻 22(6)
2. 論文標題 Psychosocial Twin Cohort Studies in Japan: The Keio Twin Research Center (KoTReC)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Twin Research and Human Genetics	6. 最初と最後の頁 591-596
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Zhao Z, Jinde S, Koike S, Tada M, Satomura Y, Yoshikawa A, Nishimura Y, Takizawa R, et al.	4. 巻 9(1)
2. 論文標題 Altered expression of microRNA-223 in the plasma of patients with first-episode schizophrenia and its possible relation to neuronal migration-related genes	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Translational psychiatry	6. 最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Baldwin JR, Arseneault L, Caspi A, Moffitt TE, Fisher HL, Odgers CL, Ambler A, Houts RM, Matthews T, Ougrin D, Richmond-Rakerd LS, Takizawa R, Danese A.	4. 巻 58(5)
2. 論文標題 Adolescent victimization and self-injurious thoughts and behaviors: a genetically sensitive cohort study	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of the American Academy of Child & Adolescent Psychiatry	6. 最初と最後の頁 506-513
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Kataoka Y*, Takizawa R*	4. 巻 21
2. 論文標題 Family accommodation and empathic responses to persons with obsessive-compulsive symptoms: The moderating effect of consideration of future consequences	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Obsessive-Compulsive and Related Disorders	6. 最初と最後の頁 138-143
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Satomura Y, Sakakibara E, Takizawa R, Koike S, Nishimura Y, Sakurada H, Yamagishi M, Shimojo C, Kawasaki S, Okada N, Matsuoka J, Kinoshita A, Jinde S, Kondo S, Kasai K.	4. 巻 243
2. 論文標題 Severity-dependent and-independent brain regions of major depressive disorder: A long-term longitudinal near-infrared spectroscopy study	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of affective disorders	6. 最初と最後の頁 249-254
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 西野悠太、井原祐子、大賀真伊、滝沢龍	4. 巻 42
2. 論文標題 国内における心の健康に関する予防教育的介入プログラムの取り組みと海外との比較.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要	6. 最初と最後の頁 97-105
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Brimblecombe N, Evans-Lacko S, Knapp M, King D, Takizawa R, Maughan B, Arseneault L.	4. 巻 208
2. 論文標題 Long term economic impact associated with childhood bullying victimization.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Social Science and Medicine	6. 最初と最後の頁 134-141
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.socscimed.2018.05.014	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Nakamura A, Takizawa R, Shimoyama H.	4. 巻 240
2. 論文標題 Increased sensitivity to sad faces in depressive symptomatology: A longitudinal study	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Affective Disorders	6. 最初と最後の頁 99-104
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jad.2018.07.034	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -



1. 著者名 Satomura Y, Sakakibara E, Takizawa R, Koike S, Nishimura Y, Sakurada H, Yamagishi M, Shimojo C, Kawasaki S, Okada, Matsuoka J, Kinoshita A, Jinde S, Kondo S, Kasai K.	4. 巻 243
2. 論文標題 Severity-dependent and -independent brain regions of major depressive disorder: A long-term longitudinal near-infrared spectroscopy study	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Affective Disorders	6. 最初と最後の頁 249-254
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jad.2018.09.029	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kataoka Y, Takizawa R.	4. 巻 in press
2. 論文標題 Family accommodation and empathic responses to persons with obsessive-compulsive symptoms: the moderating effect of consideration of future consequences	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Obsessive-Compulsive and Related Disorders	6. 最初と最後の頁 in press
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jocrd.2019.02.001	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 浦野由平、大賀真伊、滝沢 龍、星野崇宏、下山晴彦	4. 巻 18(4)
2. 論文標題 中高生におけるインターネット上のいじめ被害と加害の関連性：大規模横断調査による検討	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 臨床心理学	6. 最初と最後の頁 486-491
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Jaffee SR, Takizawa R, Arseneault L.	4. 巻 47
2. 論文標題 Buffering effects of safe, supportive, and nurturing relationships among women with childhood histories of maltreatment.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Psychological Medicine	6. 最初と最後の頁 2628-2639
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/S0033291717001027	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Koike S, Satomura Y, Kawasaki S, Yukika Nishimura Y, Kinoshita A, Sakurada H, Yamagishi M, Ichikawa E, Matsuoka J, Okada N, Takizawa R, Kasai K	4. 巻 71
2. 論文標題 Application of functional near infrared spectroscopy as supplementary examination for diagnosis of clinical stages of psychosis spectrum	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Psychiatry Clin Neurosci	6. 最初と最後の頁 794-806
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/pcn.12551	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sakakibara E, Takizawa R, Kawakubo Y, Kuwabara H, Kono T, Hamada K, Okuhata S, Eguchi S, Ishii Takahashi, AKasai K.	4. 巻 8
2. 論文標題 Genetic influences on prefrontal activation during a verbal fluency task in children: A twin study using near-infrared spectroscopy.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Brain and Behavior	6. 最初と最後の頁 e00980
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/brb3.980	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 滝沢龍	4. 巻 171
2. 論文標題 いじめ問題の生涯にわたる長期的な影響 - ストレスの生物・心理・社会的に「隠された傷跡」-	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 心と社会	6. 最初と最後の頁 88-94
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Evans-Lacko S, Takizawa R, Brimblecombe N, King D, Maughan B, Knapp M, Arseneault L.	4. 巻 47(1)
2. 論文標題 Childhood bullying victimisation is associated with use of mental health services over 5 decades: A Longitudinal nationally-representative cohort study.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Psychological Medicine.	6. 最初と最後の頁 127-135
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/S0033291716001719	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Sakakibara E, Homae F, Kawasaki S, Nishimura Y, Takizawa R, et al.	4. 巻 142
2. 論文標題 Detection of resting state functional connectivity using partial correlation analysis: A study using multi-distance and whole-head probe near-infrared spectroscopy.	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Neuroimage	6. 最初と最後の頁 590-601
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.neuroimage.2016.08.011	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kinoshita A, Takizawa R, Yahata N, Homae F, Hashimoto R, Sakakibara E, Kawasaki S, Nishimura Y, Koike S, Kasai K	4. 巻 70(11)
2. 論文標題 Development of a neurofeedback protocol targeting the frontal pole using near-infrared spectroscopy.	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Psychiatry Clin Neurosci	6. 最初と最後の頁 507-516
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/pcn.12427	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nishimura Y, Kawakubo Y, Suga M, Hashimoto K, Takei Y, Takei K, Inoue H, Yumoto M, Takizawa R, Kasai K.	4. 巻 2(3)
2. 論文標題 Familial Influences on Mismatch Negativity and Its Association with Plasma Glutamate Level: A Magnetoencephalographic Study in Twins.	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Mol Neuropsychiatry	6. 最初と最後の頁 161-172
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1159/000449426	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Iwashiro N, Koike S, Satomura Y, Suga M, Nagai T, Natsubori T, Tada M, Gonoï W, Takizawa R, Kunimatsu A, Yamasue H, Kasai K.	4. 巻 172(1-3)
2. 論文標題 Association between impaired brain activity and volume at the sub-region of Broca's area in ultra-high risk and first-episode schizophrenia: A multi-modal neuroimaging study.	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Schizophr Res	6. 最初と最後の頁 9-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.schres.2016.02.005	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Okada N, Takahashi K, Nishimura Y, Koike S, Ishii-Takahashi A, Sakakibara E, Satomura Y, Kinoshita A, Takizawa R, Kawasaki S, Nakakita M, Ohtani T, Okazaki Y, Kasai K.	4. 巻 21(2)
2. 論文標題 Characterizing prefrontal cortical activity during inhibition task in methamphetamine-associated psychosis versus schizophrenia: a multi-channel near-infrared spectroscopy study.	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Addict Biol	6. 最初と最後の頁 489-503
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/adb.12224	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Koike S, Satomura Y, Kawasaki S, Nishimura Y, Takano Y, Iwashiro N, Kinoshita A, Nagai T, Natsubori T, Tada M, Ichikawa E, Takizawa R, Kasai K.	4. 巻 170(2-3)
2. 論文標題 Association between rostral prefrontal cortical activity and functional outcome in first-episode psychosis: a longitudinal functional near-infrared spectroscopy study.	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Schizophr Res	6. 最初と最後の頁 304-310
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.schres.2016.01.003	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計49件 (うち招待講演 11件 / うち国際学会 31件)

1. 発表者名 Adachi K, Kurosawa T, Takizawa R.
2. 発表標題 Effect of Meditation Intervention using the Smartphone App to Improve Subjective or Objective State Indicators of Relaxation: An Experience Sampling Method.
3. 学会等名 23rd WPA World Congress of Psychiatry. Vienna, Austria.
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Uwagawa R, Adachi K, Kurosawa T, Takizawa R.
2. 発表標題 Effect of Mindfulness-based Meditation Intervention using the Smartphone App to Improve Trait Anger and Mental Health for Japanese Workers: A Randomized Controlled Trial.
3. 学会等名 23rd WPA World Congress of Psychiatry. Vienna, Austria. (国際学会)
4. 発表年 2023年

1 . 発表者名 Shimoda M, Kurosawa T, Aoki Y, Takizawa R.
2 . 発表標題 Impact of Menstrual Pain on Mental Health at Each Menstrual Phase: A large-scale Women Workers Study.
3 . 学会等名 23rd WPA World Congress of Psychiatry. Vienna, Austria. (国際学会)
4 . 発表年 2023年

1 . 発表者名 Kurosawa T, Shimoda M, Aoki Y, Takizawa R.
2 . 発表標題 Moderation Effects of Self-compassion on the Relationship between Depressive Symptoms and Presenteeism in Japanese Workers.
3 . 学会等名 23rd WPA World Congress of Psychiatry. Vienna, Austria. (国際学会)
4 . 発表年 2023年

1 . 発表者名 Sugie M, Kurosawa T, Uwagawa R, Hibi M, Takizawa R.
2 . 発表標題 Association between Help-seeking Attitude and Public Stigma toward Mental Health Problems.
3 . 学会等名 23rd WPA World Congress of Psychiatry. Vienna, Austria. (国際学会)
4 . 発表年 2023年

1 . 発表者名 Aoki Y, Kurosawa T, Shimoda M, Takizawa R.
2 . 発表標題 Effects of Being a Young Adult Carer on Sleep Impairment: A Large-scale Workers ' Study.
3 . 学会等名 23rd WPA World Congress of Psychiatry. Vienna, Austria. (国際学会)
4 . 発表年 2023年

1 . 発表者名 Hibi M, Adachi K, Takizawa R.
2 . 発表標題 Differential Long-Term Effects of Emotional and Sexual Abuse on Hair Cortisol in Young Adulthood: The Adverse Childhood Experiences (ACE) Study.
3 . 学会等名 23rd WPA World Congress of Psychiatry. Vienna, Austria. (国際学会)
4 . 発表年 2023年

1 . 発表者名 Adachi K, Takizawa R.
2 . 発表標題 Impact of mindfulness-based intervention on brain hemodynamics: A NIRS randomized controlled trial.
3 . 学会等名 The Organization for Human Brain Mapping (OHBM) 2023 Annual Meeting. Montreal, Canada. (国際学会)
4 . 発表年 2023年

1 . 発表者名 Uwagawa R, Shimoda M, Sugie M, Kurosawa T, Adachi K, Takizawa R.
2 . 発表標題 A Longitudinal Study of Depression and Cognitive Emotion Regulation: Focusing on Gender Differences and Time Intervals.
3 . 学会等名 10th World Congress of Cognitive and Behavioural Therapies Seoul, Korea. (国際学会)
4 . 発表年 2023年

1 . 発表者名 Adachi K, Uwagawa R, Takizawa R.
2 . 発表標題 Effect of 12-week Online Mindfulness-based Meditation Intervention Program on Cognitive Emotional Regulation: A Randomized Controlled Trial.
3 . 学会等名 10th World Congress of Cognitive and Behavioural Therapies Seoul, Korea. (国際学会)
4 . 発表年 2023年

1 . 発表者名 Shimoda M, Aoki Y, Takizawa R.
2 . 発表標題 Longitudinal Bidirectional Relationships between Sleep Problems and Premenstrual syndrome: Shedding Light on the Menstrual Cycle.
3 . 学会等名 10th World Congress of Cognitive and Behavioural Therapies Seoul, Korea ( 国際学会 )
4 . 発表年 2023年

1 . 発表者名 Kurosawa T, Adachi K, Uwagawa R, Takizawa R.
2 . 発表標題 Effectiveness Evaluation of a Self-compassion Meditation Intervention using the Smartphone App to Improve Work Performance and Mental Health for Japanese Workers: A Pilot study with Randomized Controlled Trials(RCT).
3 . 学会等名 10th World Congress of Cognitive and Behavioural Therapies Seoul, Korea. ( 国際学会 )
4 . 発表年 2023年

1 . 発表者名 Sugie M, Kurosawa T, Uwagawa R, Hibi M, Takizawa R.
2 . 発表標題 Development and Validation of the Japanese Version of the Community Attitudes toward the Mentally Ill Scale (CAMI): Towards a Comprehensive Anti-Stigma Intervention Study.
3 . 学会等名 10th World Congress of Cognitive and Behavioural Therapies Seoul, Korea. ( 国際学会 )
4 . 発表年 2023年

1 . 発表者名 Aoki Y, Shimoda M, Kurosawa T, Adachi K, Takizawa R.
2 . 発表標題 Understanding Psychological Burden of Young Adult Carers in Japan: A Large-scale Workers ' Study.
3 . 学会等名 10th World Congress of Cognitive and Behavioural Therapies Seoul, Korea. ( 国際学会 )
4 . 発表年 2023年

1. 発表者名 Hibi M, Adachi K, Takizawa R.
2. 発表標題 Long-term Relationship between Adverse Childhood Experiences and Hair Cortisol Levels in Young Adulthood.
3. 学会等名 10th World Congress of Cognitive and Behavioural Therapies Seoul, Korea. (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Adachi K, Uwagawa R, Aoki Y, Kurosawa T, Takizawa R.
2. 発表標題 Effect of 12-week online mindfulness-based meditation intervention program on autonomic nerve function by pupillary response: a randomized controlled trial.
3. 学会等名 22nd WPA World Congress of Psychiatry, Virtual Congress & Bangkok, Thailand. (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kurosawa T, Shimoda M, Takizawa R.
2. 発表標題 Longitudinal association between work performance and cognitive emotion regulation: a 3-month follow-up study.
3. 学会等名 22th WPA World Congress of Psychiatry, Virtual Congress & Bangkok, Thailand. (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Uwagawa R, Takizawa R.
2. 発表標題 Moderation effect of uncertainty on the relationship between internal-other- consciousness and interpersonal alienation.
3. 学会等名 22th WPA World Congress of Psychiatry, Virtual Congress & Bangkok, Thailand. (国際学会)
4. 発表年 2022年



1. 発表者名 Aoki Y, Adachi K, Uwagawa R, Kurosawa T, Takizawa R.
2. 発表標題 Sleep quality as a behavioral indicator and 12-week online mindfulness-based meditation intervention: a randomized controlled trial.
3. 学会等名 22th WPA World Congress of Psychiatry, Virtual Congress & Bangkok, Thailand. (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Uwagawa R, Adachi K, Aoki Y, Kurosawa T, Takizawa R.
2. 発表標題 Effect of brief mindfulness-based meditation intervention on anxiety, relaxation, and emotion: a randomized controlled trial.
3. 学会等名 22th WPA World Congress of Psychiatry, Virtual Congress & Bangkok, Thailand. (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 滝沢龍
2. 発表標題 人生早期ストレスによる健康への長期的リスクとレジリエンス
3. 学会等名 第48回日本神経内分泌学会 シンポジウム “サイエンスは脳とこころのどこにまで迫れるか”, 栃木 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 澁谷智子, 沖潮満里子, 野中舞子, 滝沢龍
2. 発表標題 ケアする人をケアする視点
3. 学会等名 東京大学大学院教育学研究科附属心理相談室 第18回公開講座
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 橋本里奈、高橋史也、滝沢龍.
2. 発表標題 コロナ禍における対人関係とFitbit Sense™による客観的睡眠評価との縦断的検討
3. 学会等名 第14回ITヘルスケア学会学術大会, オンライン
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Azuma N, Ishikawa K, Ohka M, Takizawa, R.
2. 発表標題 Exploring the impact of childhood bullying involvement and adverse childhood experiences on building resilience by gender in Japanese young adulthood.
3. 学会等名 21th WPA World Congress of Psychiatry, Virtual Congress. (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Ishikawa K, Azuma N, Ohka M, Takizawa R.
2. 発表標題 Gender difference in buffering effects of perceived social support on the association between childhood peer victimization and mental health in young adulthood.
3. 学会等名 21th WPA World Congress of Psychiatry, Virtual Congress. (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Azuma N, Takizawa R.
2. 発表標題 The impact of adverse childhood experiences on building resilience in young adulthood: the role of perceived social support by gender in Japan.
3. 学会等名 20th WPA World Congress of Psychiatry, Virtual Congress (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Nishino Y, Kurosawa T, Adachi K, Ihara Y, Matsumoto T, Shimoda M, Nakamuta H, Kim L, Azuma N, Ishikawa K, Hobou Y, Takizawa R.
2. 発表標題 The effect of adverse childhood experiences on steroid hormones by hair sampling in young adulthood.
3. 学会等名 20th WPA World Congress of Psychiatry, Virtual Congress. (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kurosawa T, Takizawa R.
2. 発表標題 Moderation effect of cognitive flexibility on the relationship between psychological distress and loss of work performance due to presenteeism among Japanese workers.
3. 学会等名 0th WPA World Congress of Psychiatry, Virtual Congress. (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Nakamuta H, Adachi K, Kurosawa K, Takizawa, R.
2. 発表標題 Differential Pathways to Burnout and Work Engagement among Japanese Teachers.
3. 学会等名 8th International Conference on Education and Psychological Sciences. Fukuoka, Japan (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 東菜摘子, 石川恵太, 大賀真伊, 黒沢拓夢, 滝沢龍.
2. 発表標題 心理的虐待を経験した若年成人による経験の意味づけに関する研究
3. 学会等名 第18回日本質的心理学会. オンライン.
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kurosawa T, Nishino Y, Adachi K, Ihara Y, Hobou Y, Takizawa, R.
2. 発表標題 Association between hair steroid hormones and stress-related psychological measures
3. 学会等名 British Association for Behavioural and Cognitive Psychotherapies, 48th Annual Conference and Workshops, Cardiff, UK (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Ihara Y, Kurosawa T, Takizawa, R.
2. 発表標題 Evaluation of group cognitive-behavioural therapy based resilience skill program for non-clinical working population: a pilot randomized controlled trial in Japan
3. 学会等名 British Association for Behavioural and Cognitive Psychotherapies, 48th Annual Conference and Workshops, Cardiff, UK (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 西野悠太、松本珠実、下田茉莉子、安達滉一郎、中牟田春美、金里紗、黒沢拓夢、中村珠希、井原祐子、保房佳孝、滝沢龍.
2. 発表標題 呼吸法による短期的・長期的リラクゼーションの効果検証：Virtual Reality装置と生理指標を用いたランダム化比較試験.
3. 学会等名 第61回 日本心身医学会総会、東京
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 西野悠太、松本珠実、下田茉莉子、安達滉一郎、中牟田春美、金里紗、黒沢拓夢、中村珠希、井原祐子、保房佳孝、滝沢龍
2. 発表標題 Virtual Realityによる疑似海洋環境と新しい生理指標を用いた呼吸法の短期的・長期的リラクゼーション効果に関する研究
3. 学会等名 第131回日本心身医学会関東地方会、 東京大学弥生講堂一条ホール
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Ihara, Y, Matsumoto T, Takizawa R.
2. 発表標題 Can workplace cognitive-behavioral group intervention for preventing mental health issues improve work functioning? A systematic review.
3. 学会等名 9th World Congress of Behavioural and Cognitive Therapies, Berlin, Germany (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 滝沢龍
2. 発表標題 子ども期の逆境体験が成人の心身の健康に及ぼす影響
3. 学会等名 第19回東京大学生命科学シンポジウム、東京。(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ihara Y, Schlemper L, Takizawa R.
2. 発表標題 A Qualitative Study on Japanese Young Physician's Stressors and the Obstacles to Help-Seeking about Mental Health.
3. 学会等名 The 20th International Conference on Physician and Patient Health, London, 14th May 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ihara Y, Ohka M, Nakamura A, Ueda M, Nochi M, Takizawa R.
2. 発表標題 Occupational stressors and barriers to help-seeking for mental health in Japanese young hospital doctors: an exploratory study.
3. 学会等名 13th conference of the European Academy of Occupational Health Psychology, Lisbon, 5th September 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 滝沢龍
2. 発表標題 精神科薬物療法の実践的理解.
3. 学会等名 公認心理師「到達目標」研修会、東京（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 滝沢龍
2. 発表標題 精神疾患の診断と治療の実践的理解.
3. 学会等名 公認心理師「到達目標」研修会、東京（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 滝沢龍
2. 発表標題 いじめによる子どもの心身の「隠された」傷と後遺症
3. 学会等名 いじめ問題の実態を知り理解を深めるための勉強会・参議院議員会館・東京（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 滝沢龍
2. 発表標題 精神科薬物療法の基本（1）
3. 学会等名 臨床心理iネット・東京（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 滝沢龍
2. 発表標題 精神科薬物療法の基本(2)
3. 学会等名 臨床心理iネット・東京(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 滝沢龍
2. 発表標題 発達の行動遺伝学の現在
3. 学会等名 日本教育心理学会第59回総会・シンポジウム “ 児童期・青年期・成人期の双生児コホート研究 ” 2017年10月・名古屋
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Arseneault L, Evans-Lacko S, Takizawa R, Brimblecombe N, King D, Maughan B, Martin Knapp M.
2. 発表標題 Childhood bullying victimization is associated with use of mental health services over 5 decades: A longitudinal nationally-representative cohort study.
3. 学会等名 Life History Research Society Meeting (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 滝沢 龍
2. 発表標題 平成28年度 第1回 光トポグラフィ 検査講習会
3. 学会等名 光トポグラフィ 検査講習会(招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 滝沢 龍
2. 発表標題 心理師のための薬物療法入門
3. 学会等名 東京大学大学院教育学系研究科・臨床心理学（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 滝沢 龍
2. 発表標題 いじめ問題の深刻な長期的影響
3. 学会等名 東京大学大学院教育学研究科附属心理教育相談室主催 第12回公開講座（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 滝沢 龍
2. 発表標題 平成28年度 第2回 光トポグラフィ 検査講習会
3. 学会等名 光トポグラフィ 検査講習会（招待講演）
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計22件

1. 著者名 松田修、滝沢龍（編著）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 336
3. 書名 現代の臨床心理学2 臨床心理アセスメント	



1. 著者名 滝沢龍、松田修.	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 7
3. 書名 第 部 第 1 章 生物-心理-社会モデルの意義. In. 「現代の臨床心理学2 臨床心理アセスメント」	

1. 著者名 松田修、滝沢龍.	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 14
3. 書名 第 部 第 2 章 アセスメントの目的と方法. In. 「現代の臨床心理学2 臨床心理アセスメント」	

1. 著者名 滝沢龍、松田修.	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 12
3. 書名 第 部 第 1 章 ディメンショナルな視点からのアセスメント. In. 「現代の臨床心理学2 臨床心理アセスメント」	

1. 著者名 滝沢龍	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 11
3. 書名 第 部 第 2 章 抑うつ. In. 「現代の臨床心理学2 臨床心理アセスメント」	

1. 著者名 松田修、滝沢龍.	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 10
3. 書名 第 部 第 1 章 テストバッチの考え方と組み方. In. 「現代の臨床心理学2 臨床心理アセスメント」	

1. 著者名 松田修、滝沢龍.	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 13
3. 書名 第 部 第 1 章 フィードバックと報告の考え方と方法. In. 「現代の臨床心理学2 臨床心理アセスメント」	

1. 著者名 石井秀宗、滝沢龍（編著）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 医歯薬出版	5. 総ページ数 248
3. 書名 公認心理師カリキュラム準拠 臨床統計学 [心理学統計法・心理学研究法].	

1. 著者名 石井秀宗、滝沢龍.	4. 発行年 2021年
2. 出版社 医歯薬出版	5. 総ページ数 5
3. 書名 序章 臨床統計学の目指すところ. In. 「公認心理師カリキュラム準拠 臨床統計学 [心理学統計法・心理学研究法]」	

1. 著者名 シュレンベル レナ、滝沢龍.	4. 発行年 2021年
2. 出版社 医歯薬出版	5. 総ページ数 14
3. 書名 1章 臨床研究法の理解. In. 「公認心理師カリキュラム準拠 臨床統計学 [心理学統計法・心理学研究法]」	

1. 著者名 出野美那子、滝沢龍.	4. 発行年 2021年
2. 出版社 医歯薬出版	5. 総ページ数 14
3. 書名 2章 データの収集. In. 「公認心理師カリキュラム準拠 臨床統計学 [心理学統計法・心理学研究法]」	

1. 著者名 稲吉玲美、滝沢龍.	4. 発行年 2021年
2. 出版社 医歯薬出版	5. 総ページ数 14
3. 書名 3章 データの構造. In. 「公認心理師カリキュラム準拠 臨床統計学 [心理学統計法・心理学研究法]」	

1. 著者名 中村杏奈、滝沢龍.	4. 発行年 2021年
2. 出版社 医歯薬出版	5. 総ページ数 14
3. 書名 5章 量的変数間の関連の記述. In. 「公認心理師カリキュラム準拠 臨床統計学 [心理学統計法・心理学研究法]」	

1. 著者名 天井響子、滝沢龍.	4. 発行年 2021年
2. 出版社 医歯薬出版	5. 総ページ数 16
3. 書名 10章 2要因分散分析. In. 「公認心理師カリキュラム準拠 臨床統計学 [心理学統計法・心理学研究法]」	

1. 著者名 浦野由平、滝沢龍.	4. 発行年 2021年
2. 出版社 医歯薬出版	5. 総ページ数 12
3. 書名 13章 回帰分析. In. 「公認心理師カリキュラム準拠 臨床統計学 [心理学統計法・心理学研究法]」	

1. 著者名 滝沢龍	4. 発行年 2018年
2. 出版社 遠見書房	5. 総ページ数 12
3. 書名 第12章 精神生理学的研究法. In. 「公認心理師の基礎と実践 第4巻 心理学研究法」	

1. 著者名 滝沢 龍 (訳) / American Psychiatric Association	4. 発行年 2016年
2. 出版社 医学書院	5. 総ページ数 333
3. 書名 精神疾患・メンタルヘルスガイドブック Understanding Mental Disorders Your Guide to DSM-5	

1. 著者名 滝沢 龍	4. 発行年 2016年
2. 出版社 医学書院	5. 総ページ数 4
3. 書名 抑うつ障害群 うつ病. In. 下山晴彦、中嶋義文、鈴木伸一、花村温子、滝沢龍、(編)「公認心理師必携 精神医療・臨床心理の知識と技法」	

1. 著者名 滝沢 龍	4. 発行年 2016年
2. 出版社 医学書院	5. 総ページ数 3
3. 書名 抗うつ薬. In. 下山晴彦、中嶋義文、鈴木伸一、花村温子、滝沢龍、(編)「公認心理師必携 精神医療・臨床心理の知識と技法」	

1. 著者名 滝沢 龍	4. 発行年 2016年
2. 出版社 医学書院	5. 総ページ数 3
3. 書名 抗不安薬・睡眠薬. In. 下山晴彦、中嶋義文、鈴木伸一、花村温子、滝沢龍、(編)「公認心理師必携 精神医療・臨床心理の知識と技法」	

1. 著者名 滝沢 龍	4. 発行年 2016年
2. 出版社 医学書院	5. 総ページ数 2
3. 書名 抗精神病薬. In. 下山晴彦、中嶋義文、鈴木伸一、花村温子、滝沢龍、(編)「公認心理師必携 精神医療・臨床心理の知識と技法」	

1. 著者名 滝沢 龍	4. 発行年 2016年
2. 出版社 医学書院	5. 総ページ数 2
3. 書名 その他の向精神薬・気分安定薬・抗認知症薬・精神刺激薬. In. 下山晴彦、中嶋義文、鈴木伸一、花村温子、滝沢龍、(編)「公認心理師必携 精神医療・臨床心理の知識と技法」	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>東京大学大学院 滝沢龍 研究室  <a href="http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~takizawa-lab/">http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~takizawa-lab/</a></p>
---

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
英国(United Kingdom)	SGDP Centre	IoPPN	King's College London	
英国(United Kingdom)	Personal Social Services Research Unit		London School of Economics	
英国(United Kingdom)	Health Service and Population Research	IoPPN	King 's College London	
米国(U.S.A.)	Department of Psychology		University of Pennsylvania	
米国(U.S.A.)	Dept. of Psychology and Neuroscience		Duke University	